

# 女性委員登用推進へ キャラバン隊

## 来年改選に向けて市町に要請

### 滋賀 湖国女性農業・推進委員協議会

【滋賀】県内の女性農業委員・農地利用最適化推進委員で組織する湖国女性農業・推進委員協議会（北村文尾会長）は、このほど、キャラバン隊を編成し、各市町長と農業委員会会長に女性委員登用を要請した。

要請は、来年7月に改選を迎える県内16市町の農業委員会を対象に、複数の女性委員の登用を推進することが目的だ。

キャラバン隊は「女性右から多賀町農業委員会の小菅建次会長、久保久良多賀町長、今堀茂子女性協副会長、県農業会議の山下英利会長



の視点が加わることで農業委員会での議論が活発化し、活動強化につながる。地域計画のブラッシュアップには、集落の女性や若い農業者の感性や視点を活かすことが必要で、参加を促していく役割にも期待できる」とし、一人でも多くの女性

委員登用の必要性を訴えた。

要請活動では、10月2日～11月4日まで、女性協役員と農業会議が巡回した。要請を受けた市町長と農業委員会会長は「女性委員の任命には、現職委員の交代もあるため、女性農業者の掘り起

こしを進め、一人でも多くの女性委員の任命に向けて努めたい。また、任期を継続しやすい環境づくりも行っていくたい。女性委員の活躍で、女性農業者が増えてくれることも期待したい」との考えを示した。

同席した県農業農村振興事務所の徳田裕二農産普及課長は「県としても女性農業者の活躍を進め、女性農業者の育成・確保策に引き続き取り組んでいく」と語った。

（福井かれん）



生産した石川早生芋を手にとる阪上さん

## 「石川早生芋」が伝統野菜に

### 大阪府が認証、昔ならではの味わい

【大阪】大阪府は10月3日、新たな「伝統野菜」として「石川早生芋」を認証した。

昭和初期以前（約100年前）から大阪府内で栽培され、苗や種子などの来歴が明らかで、大阪独自の品種・栽培方法による野菜などを認証するもので、現在25品目が認証されている。

石川早生芋は、南河内郡石川村（現・河南町）を原産とする里芋の早生種で、粘質で味がよく、子芋が小ぶりで丸いのが特徴。聖徳太子が叡福寺造営の折、奈良・法隆寺から持参した芋の一株が土地に適し、付近の篤農家により改良された、といわれている。

府内では南河内・泉州一帯を中心に栽培。昭和30年代より大阪産の種芋が他府県にも流通し、全

## 二人三脚でイチゴ栽培に奮闘

### 将来の支えへ農年に加入

明日香村

藤原栄一さん、弥栄さん

【奈良】明日香村で、イチゴ（あすかルビー）をわが子のように育てる藤原栄一さん（55）、弥栄さん（54）夫妻は、親の高齢化により、農業を5年前に継承。イチゴ（20坪）を中心に「ASUKA Fuji harvest farm BASE」（藤原農園）として経営し、今年4月には、農業者年金に夫婦で加入した。

国に生産がひろがっているが、その礎が原産地の大阪であることなどが評価され、認証に至った。

河南町で石川早生芋を生産する阪上勝彦さんは「先祖代々栽培が続く石川早生が、歴史あるものとして公に認められうれしい。昔ならではの食味と食感をぜひ味わってほしい」と語る。

（沼田湧悟）



①藤原栄一さんと弥栄さん、②農園Instagramの二次元コード

は、一年中イチゴを味わってもらえるように冷凍イチゴやジャムを作り、SNSで販売・情報発信している。

そのような中、農業者年金制度について、農業委員会から熱心な説明を受け、税制面での優遇措置があることが加入の決め手となった。夫婦での加入は、女性が男性より

「老後もいろいろな出会いを大切にしながら農業を楽しく続けたい。そのときに終身年金である農業者年金は心強い」と藤原さん夫妻はそう語った。

（木村将史）

## 青年 委員 奮闘中

▷37

三木市 白木拓真さん

【兵庫】三木市の白木金会（きんかい）で初めて農業を体験した。その際に「農業の品質の酒米「山田錦」の魅力」を感じ、大学卒業後、同市に移住して就農で、山田錦を中心に水稲17畝を栽培している。

岐阜県出身で非農家に育った白木さんは、大学生のころに同市吉川町



山田錦の栽培をはじめ、地域の農地の集約化や、

## 酒米づくりで農業の魅力発信

### 「山田錦」一大産地の担い手

近畿総局  
京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入  
丁子風呂町104-2 府庁西別館内  
075・441・3660

滋賀県支局  
077・523・2439

大阪府支局  
06・694・2701

兵庫県支局  
078・339・1122

奈良県支局  
074・222・1101

和歌山県支局  
073・432・6114

## 女性委員の登用促進を要請

きょうと  
女性農業委員・推進委員の会



きょうと女性農業委員・推進委員の会（今中副会長）から伊根町農業委員会（小原会長）へ要請（9月30日）

【京都】「きょうと女性農業委員・推進委員の会」（山下明子会長）は、来春に委員募集が予定されている19市町、伊根町）について、

の仲間を増やすため、市町町長と農業委員会会長に要請活動を展開。各委員会の女性委員から登用促進の働きかけを行っている。

特に、女性委員が不在の3町（大山崎町、笠置町、伊根町）について

は、山下会長と今中睦美副会長が9・10月に直接訪ねて要請した。

今中副会長は、9月30日に開催された伊根町農業委員会総会に出席し、小原澄晴会長に要請書を手渡し、委員全員と意見交換を行った。

山下会長は、10月3日に笠置町農業委員会の植田克巳会長、同10日に大山崎町農業委員会の吉田賢史事務局長を訪ね、女性候補者の掘り起こしと2人以上の登用に向けた取り組みを要請した。

山下会長は「次の改選で女性委員を増やすため全力でがんばりたい」と決意を語った。

（会沢仁史）



【和歌山】「子どものころから手伝いをしていた祖父の農業をいつかは継ぎたいと思っていた」と就農のきっかけを語る橋本市の太西啓斗さん（29）。県の農林大学で9カ月間の研修を受けた後、祖父のもので就農。

今年から経営を継承した。

現在は、地域内の3・2畝の農地で米を生産。

橋本市 太西啓斗さん

## 祖父を継ぎ念願の米農家に

「農業を魅力ある産業にしたい」

そのうち50坪は、祖父が実践していた農薬や除草剤を使わない「アイガモ農法」を実施し、その畑

「周辺農地を借り受けて規模拡大するとともに、農業を魅力ある産業にしていきたい」と話す。

（鹿嶋俊宏）



「もみ殻を積みあげるのも楽しみの一つ」と語る太西さん